

# 長崎市外来種リスト



サステなっちゃん



令和4年11月



長崎市



## <目次>

1	背景・目的	1
2	リストの性格	1
3	掲載範囲	
	(1)外来種の定義	1
	(2)長崎市の範囲	2
	(3)掲載生物	2
	(4)選定理由	2
	(5)カテゴリー区分	3
4	その他リスト各項目の解説	3
5	掲載種索引（植物）	4
	掲載種索引（動物）	6
6	長崎市外来種リスト（植物）	8
7	長崎市外来種リスト（動物）	10
8	【参考資料】各分類群の主要な種の解説・写真	12

## 1 背景・目的

近年、人間活動の発展に伴い人と物の移動が活発化し、国外または国内の他の地域から、生物が本来有する移動能力を超えて、人為によって意図的・非意図的に導入される生物が増加しています。ある地域に人為的に導入されることにより、その自然分布域（その生物が本来有する能力で移動できる範囲により定まる地域）を超えて存在することとなる生物は、一般的に外来種と呼ばれ、このような生物による生態系、人の生命・身体または農林水産業への被害の問題は、一般的に外来種の問題として認識されています。

国際的にも生物多様性条約第8条において、侵略的な外来種への対応の必要性が位置付けられ、予防的な観点に立って、侵入の防止、早期発見・早期対応、防除（影響緩和）を図ることが重要とされています。

また、持続可能な開発目標（SDGs）においても、特に目標15において、陸域生態系と内陸淡水生態系の保護、回復、持続可能な利用への推進、生物多様性の損失の阻止や絶滅危惧種の保護、また外来種の侵入の防止やその対策が個別ターゲットとして世界共通の目標とされています。

国内においては、生態系、人の生命・身体または農林水産業に係る被害を防止することを目的として、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成16年法律第78号）が制定されています。

長崎市においては、開発等による影響からの回避と豊かな自然環境を保全するため、「長崎市レッドデータブック」を作成し、市民・事業者の自然環境保全に対する意識の高揚を図ってまいりましたが、一方で外来種問題が、地域固有の生物多様性に大きな脅威となっています。

このようなことから、平成27年2月には「長崎市の外来種リスト」を作成し、市内における外来種の実態を把握するとともに、外来種問題の周知啓発を図ってまいりましたが、今回、外来種リスト作成後5年以上が経過し、国や多くの自治体での外来種に対する情報が蓄積され、市内でも新たな外来種が確認されるなど状況に変化が生じていることから、リストの更新を行うものです。

引き続き、外来種の問題に対する市民の理解と意識の高揚を図り、外来種の拡大抑制につなげてまいります。

## 2 リストの性格

長崎市が作成・公表するもの。作成にあたっては、環境省および農林水産省が作成・公表した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」（平成27年3月）に準拠する形で、長崎市環境部と長崎市自然環境調査員からなる長崎市自然環境調査委員会において検討を行いました。生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがあるものを生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定したものとされています。

## 3 掲載範囲

### （1）外来種の定義

人為によって、長崎市に江戸時代以降の過去もしくは現在の自然分布域外から持ち込まれた繁殖可能な状態の種、亜種、変種、地域個体群。人為的に持ち込まれる際の意図的、非意図的は問わない。

動物については、国内の長崎市以外の地域から持ち込まれた種や、在来種と同種であっても遺伝的に異質なものを、屋外での繁殖が確認されていない未定着種は含めています。

人為とされる「地球温暖化」に伴い、長崎市外の本来の生息地から種自らの飛来等で定着したもの、屋外であっても圃場・庭園・植林地等で生息生育を管理されている状態の個体・個体群は含めない。

## (2) 長崎市の範囲

長崎市の陸域、淡水域および港湾などごく沿岸部の海域（概ね海岸線より沖合 100m以内）。

## (3) 掲載生物

長崎市自然環境調査委員が把握可能な分類群。

主な分類群として、高等植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、十脚甲殻類、貝類及びその他（それ以外のもので人への危険性や不快感を及ぼすもの）。

## (4) 選定理由

ア 植物 次のⅠ～Ⅴに1つ以上該当するものを掲載しています。

- Ⅰ 生態系被害のうち交雑が確認されている、又はその可能性が高いもの。
- Ⅱ 生物多様性の保全上重要な地域※で問題になっている、又はその可能性が高いもの。
- Ⅲ 人体に重篤な被害を引き起こす、又はその可能性が高いもの。
- Ⅳ 生態系被害のうち競合又は改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高いもの。
- Ⅴ 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もあるもの。

イ 動物 次のⅠ～Ⅳに1つ以上該当するものを掲載しています。

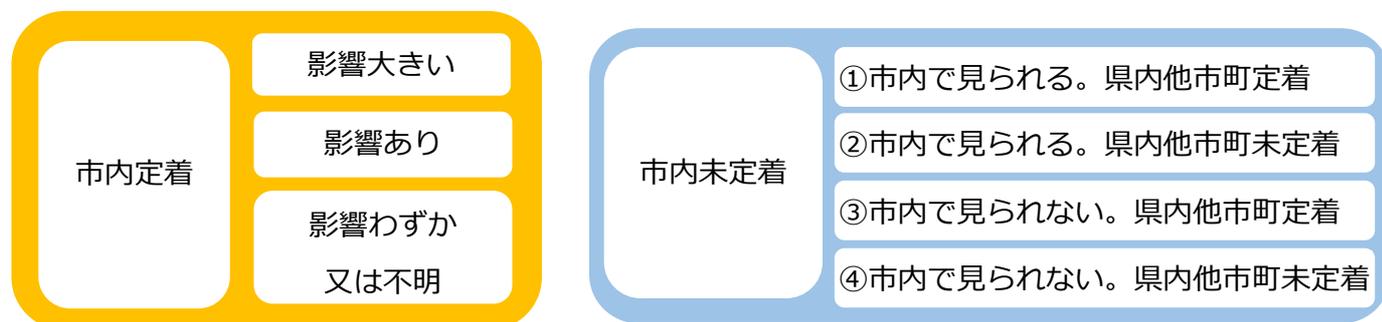
- Ⅰ 生態系被害が大きいもの。
- Ⅱ 生物多様性の保全上重要な地域※に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
- Ⅲ 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
- Ⅳ 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が注目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※生物多様性の保全上重要な地域とは長崎市自然環境ガイドブック（平成 28 年）に記載の 19 地域を指す。

①大江川の河口干潟、②藤原川形上岳どぶ池、③県民の森（岩背戸溪谷）④神浦川上流域、⑤西海川の河口干潟、⑥檜の久保湿地、⑦黒崎永田湿地自然公園、⑧多以良川の河口干潟、⑨相川町馬乗川平休耕田とその周辺、⑩矢筈岳山頂・東部湿地群、⑪岩屋山、⑫金毘羅山、⑬稲佐山、⑭八郎川の河口干潟、⑮本河内高部・低部ダム周辺の森、⑯市民の森・こしき岩付近、⑰川原大池・周辺植生、⑱野母崎権現山一帯、⑲野母崎樺島町田原川（地下ダム）

## (5) カテゴリー区分

環境省の対策優先度の要件※及び長崎市における定着度や被害可能性度を総合的に勘案し、次のとおり区分しています。なお、本書における「定着」とは、環境省の外来生物法用語集より「外来種が新しい生息地で、継続的に生存可能な子孫をつくることに成功する過程のこと。」と定義しています。



※環境省の対策優先度の要件は以下のとおり。

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大。
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす。
- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

## 4 その他リスト各項目の解説

### (1) 「由来」項目

我が国に自然分布域を有していない生物種である「国外由来の外来種」と我が国に自然分布域を有しているが、その自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種である「国内由来の外来種」に分けている。

### (2) 「特定外来」「生態系外来」項目

国の指定による「特定外来種」及び「生態系被害防止外来種」を示す。

## 5 掲載種索引

### 【植物】

ア	No		
アオノリュウゼツラン	1	カッコウアザミ	32
アツバキミガヨラン	2	カミヤツデ	33
アツミゲシ	3	カモガヤ	34
アマゾントチカガミ	4	<b>キ</b>	
アメリカスズメノヒエ	5	キウイフルーツ	35
アメリカセンダングサ	6	キシウスズメノヒエ	36
アメリカネナシカズラ	7	キシヨウブ	37
アレチヌスビトハギ	8	<b>ケ</b>	
アレチハナガサ	9	ケツメクサ (ヒメマツバボタン)	38
<b>イ</b>		ケナシヒメムカシヨモギ	39
イタチハギ	10	<b>コ</b>	
<b>ウ</b>		コヌカグサ	40
ウキアゼナ	11	コマツヨイグサ	41
ウチワサボテン属	12	コンテリクラマゴケ	42
ウチワゼニクサ (タテバチドメグサ)	13	<b>シ</b>	
<b>エ</b>		シチヘンゲ (ランタナ)	43
エゾノギシギシ	14	シナダレスズメガヤ	44
園芸スイレン	15	シマスズメノヒエ	45
<b>オ</b>		シャクチリソバ	46
オオアワガエリ	16	シュロガヤツリ	47
オオオナモミ	17	シンテッポウユリ	48
オオカナダモ	18	<b>セ</b>	
オオカワヂシャ	19	セイタカアワダチソウ	49
オオキバナカタバミ	20	セイバンモロコシ	50
オオキンケイギク	21	セイヨウカラシナ	51
オオクサキビ	22	<b>タ</b>	
オオフサモ	23	タチアワユキセンダングサ	52
オオブタクサ (クワモドキ)	24	タチスズメノヒエ	53
オオフタバムグラ	25	<b>チ</b>	
オニウシノケグサ	26	チクゴスズメノヒエ	54
オランダガラシ	27	<b>ツ</b>	
<b>カ</b>		ツルドクダミ	55
外来アゾラ種	28	ツルニチニチソウ	56
外来クサフジ類	29	<b>ト</b>	
外来性タンポポ种群	30	トウネズミモチ	57
外来ノアサガオ類	31	ドクムギ類	58

<b>ナ</b>	<b>No</b>	モミジヒルガオ	87
ナガエツルノゲイトウ	59	<b>ヤ</b>	
ナガバギシギシ	60	ヤナギバルイラソウ	88
ナギナタガヤ	61	<b>ヨ</b>	
ナルトサワギク	62	ヨシススキ	89
ナンキンハゼ	63		
<b>ノ</b>			
ノハカタカラクサ	64		
<b>ハ</b>			
バクヤギク	65		
ハナシュクシャ	66		
ハナニラ	67		
ハリエンジュ (ニセアカシア)	68		
ハルガヤ	69		
<b>ヒ</b>			
ヒメイワダレソウ	70		
ヒメジョオン	71		
ヒメスイバ	72		
ヒメツルソバ	73		
ヒメヒオオギズイセン	74		
ピラカンサ類	75		
ビワ	76		
<b>フ</b>			
フヨウ	77		
フランスギク	78		
<b>ヘ</b>			
ペラペラヨメナ	79		
<b>ホ</b>			
ホシアザガオ	80		
ホテイアオイ	81		
<b>マ</b>			
マンテマ	82		
<b>ム</b>			
ムシトリナデシコ	83		
<b>メ</b>			
メリケンカルカヤ	84		
メリケンガヤツリ	85		
<b>モ</b>			
モウソウチクなどの竹類	86		

## 5 掲載種索引

### 【動物】

ア		No.	ケ	
アオマツムシ	昆虫類	1	ゲンゴロウブナ (ヘラブナ)	魚類 5
アメリカザリガニ	十脚甲殻類	1	<b>コ</b>	
アメリカシロヒトリ	昆虫類	2	コイ	魚類 6
アメリカナミウズムシ	その他	1	コウライキジ	鳥類 5
アメリカフジツボ	その他	2	コウロエンカワヒバリガイ	貝類 2
アメリカミズアブ	昆虫類	3	国産クワガタムシ(オオクワガタ)	昆虫類 11
アライグマ	哺乳類	1	コジュケイ	鳥類 6
アルファルファタコゾウムシ	昆虫類	4	コブハクチョウ	鳥類 7
アワダチソウグンバイ	昆虫類	5	<b>サ</b>	
<b>イ</b>			サカマキガイ	貝類 3
イネミズゾウムシ	昆虫類	6	サツマゴキブリ	昆虫類 12
<b>ウ</b>			<b>シ</b>	
ウシガエル	両生類	1	シベリアイタチ (チョウセンイタチ)	哺乳類 2
ウスカワマイマイ	貝類	1	シマメノウフネガイ	貝類 4
<b>オ</b>			シロガシラ	鳥類 8
オイカワ	魚類	1	<b>ス</b>	
オオクチバス	魚類	2	スクミリンゴガイ	貝類 5
オオマリコケムシ	その他	3	スジエビ	十脚甲殻類 3
オオミノガヤドリバエ	昆虫類	7	<b>セ</b>	
オカダンゴムシ	その他	4	セアカゴケグモ	その他 6
<b>カ</b>			セイヨウミツバチ	昆虫類 13
外国産クワガタムシ	昆虫類	8	<b>ソ</b>	
外国産メジロ	鳥類	1	ソウシチョウ	鳥類 9
カササギ	鳥類	2	<b>タ</b>	
カサネカンザシ	その他	5	タイワンクツワムシ	昆虫類 14
カダヤシ	魚類	3	タイワンシジミ種群	貝類 6
ガビチョウ	鳥類	3	タテジマフジツボ	その他 7
カミツキガメ	爬虫類	1	タモロコ	魚類 7
カムルチー	魚類	4	<b>チ</b>	
カワラバト (ドバト)	鳥類	4	チャバネゴキブリ	昆虫類 15
カワリヌマエビ属	十脚甲殻類	2	チュウゴクオナガコバチ	昆虫類 16
<b>キ</b>			<b>ツ</b>	
キマダラカメムシ	昆虫類	9	ツシマケマイマイ	貝類 7
<b>ク</b>			ツマアカスズメバチ	昆虫類 17
クサガメ	爬虫類	2		
クリタマバチ	昆虫類	10		

<b>ト</b>		<b>No.</b>	ヨーロッパフジツボ	その他	11
トガリアメンボ	昆虫類	18	<b>ラ</b>		
トゲムネミヤマカミキリ	昆虫類	19	ラミーカミキリ	昆虫類	30
トライミズゴマツボ	貝類	8	<b>ワ</b>		
<b>ナ</b>			ワニガメ	爬虫類	4
ナイルティラピア	魚類	8			
<b>ハ</b>					
ハイイロゴケグモ	その他	8			
ハブタエモノアラガイ	貝類	9			
ハラアカコブカミキリ	昆虫類	20			
<b>ヒ</b>					
ヒメタニシ	貝類	10			
ヒロヘリアオイラガ	昆虫類	21			
<b>フ</b>					
フナ属	魚類	9			
ブルーギル	魚類	10			
フロリダマミズヨコエビ	その他	9			
<b>ヘ</b>					
ヘクソカズラグンバイ	昆虫類	22			
<b>ミ</b>					
ミシシippアカミミガメ	爬虫類	3			
ミドリイガイ	貝類	11			
ミナミキイロアザミウマ	昆虫類	23			
<b>ム</b>					
ムラサキイガイ	貝類	12			
<b>メ</b>					
メダカ属	魚類	11			
メリケンコザラ	貝類	13			
<b>モ</b>					
モツゴ	魚類	12			
モンキタマムシ	昆虫類	24			
<b>ヤ</b>					
ヤサイゾウムシ	昆虫類	25			
ヤシオオオサゾウムシ	昆虫類	26			
ヤノネカイガラムシ	昆虫類	27			
ヤンバルトサカヤスデ	その他	10			
<b>ヨ</b>					
ヨコズナサシガメ	昆虫類	28			
ヨツモンカメノコハムシ	昆虫類	29			

# 長崎市外来種リスト(植物)

## 1. 外来種の定義

- (1)人為によって、長崎市に江戸時代以降の過去もしくは現在の自然分布域外から持ち込まれた繁殖可能な状態の種、亜種、変種、地域個体群。人為的に持ち込まれる際の意図的、非意図的は問わない。
- (2)人為とされる「地球温暖化」に伴い、長崎市外の本来の生息地から種自らの飛来等で定着したもの、屋外であっても圃場・庭園・植林地等で生息生育を管理されている状態の個体・個体群は含めない。

## 2. 範囲

- (1)長崎市の陸域、淡水域および港湾などごく沿岸部の海域(概ね海岸線より沖合100m以内)。
- (2)長崎市自然環境調査委員が把握可能な分類群。  
主な分類群として、高等植物及びその他(それ以外のもので人への危険性や不快感を及ぼすもの)。

## 3. 選定理由

- I 生態系被害のうち交雑が確認されている、又はその可能性が高いもの。
- II 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、又はその可能性が高いもの。
- III 人体に重篤な被害を引き起こす、又はその可能性が高いもの。
- IV 生態系被害のうち競合又は改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高いもの。
- V 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もあるもの。

## 4. 市内未定着(定着予防)

- ①市内で見られる。県内他市町定着
- ②市内で見られる。県内他市町未定着
- ③市内で見られない。県内他市町定着
- ④市内で見られない。県内他市町未定着

No.	掲載	和名(別名、流通名)	科名	由来		特定外来	生態系外来	選定理由	長崎市リスト				備考
				国外	国内				定着			未定着	
									影響大きい	影響あり	影響わずか又は不明		
1	新	アオノリュウゼツラン	リュウゼツラン	○			○	II、IV			○		海岸に侵入
2		アツバキミガヨラン	リュウゼツラン	○			○	II、IV			○		海岸で繁殖
3	新	アツミゲシ	ケシ	○			○	V			○		
4	新	アマゾンチカガミ	トチカガミ	○			○	II、IV			○		
5		アメリカスズメノヒエ	イネ	○			○	II、IV			○		
6		アメリカセンダングサ	キク	○			○	IV、V			○		
7		アメリカネナシカズラ	ヒルガオ	○			○	IV			○		
8		アレチヌスビトハギ	マメ	○			○	IV			○		
9		アレチハナガサ	クマツツラ	○			○	IV			○		
10		イタチハギ	マメ	○			○	II、IV、V			○		
11	新	ウキアゼナ	ゴマノハグサ	○			○	IV			○		
12	新	ウチワサボテン属	サボテン	○			○	II、IV			○		
13	新	ウチワゼニクサ(タテバチドメグサ)	セリ	○			○	II、IV	○				池畔に繁殖
14		エゾノギンギン	タデ	○			○	I、II、IV			○		
15	新	園芸スイレン	スイレン	○			○	II、IV			○		池に繁殖
16		オオアワガエリ	イネ	○			○	II、IV			○		
17		オオオナモミ	キク	○			○	I、IV、V			○		
18		オオカナダモ	トチカガミ	○			○	II、IV	○				池や河川に大繁殖
19		オオカワヂシャ	ゴマノハグサ	○		○	○	I、IV			○		
20		オオキバナカタバミ	カタバミ	○			○	II、IV	○				一部の自然海岸に侵入
21		オオキンケイギク	キク	○		○	○	IV			○		
22		オオクサキビ	イネ	○			○	II、IV			○		
23		オオフサモ	アリノトウグサ	○		○	○	IV			○		
24		オオブタクサ(クワモドキ)	キク	○			○	II、IV			○		
25	新	オオフタバムグラ	アカネ	○			○	II、IV			○		
26		オニウシノケグサ	イネ	○			○	II、IV			○		
27		オランダガラシ	アブラナ	○			○	IV、V			○		
28		外来アソラ種	アカウキクサ	○		○	○	I、II、IV	○				在来アカウキクサ類は絶滅
29	新	外来クサフジ類	マメ	○			○	IV			○		
30		外来性タンポポ種群	キク	○			○	I、II、IV			○		
31		外来ノアサガオ類	ヒルガオ	○			○	II、IV、V	○				
32	新	カッコウアザミ	キク	○			○	IV			○		
33		モツゴ	ウコギ	○			○	II、IV			○		
34		カモガヤ	イネ	○			○	II、IV			○		
35	新	キウイフルーツ	マタタビ	○			○	IV			○		
36		キシウスズメノヒエ	イネ	○			○	IV、V			○		
37		キシヨウブ	アヤメ	○			○	II、IV			○		池や放棄水田に繁殖
38		ケツメクサ(ヒメマツバボタン)	スベリヒユ	○			○	IV			○		

No.	掲載	和名(別名、流通名)	科名	由来		特定 外来	生態系 外来	長崎市リスト				備考
				選定 理由	定 着			未定着				
					影響 大きい				影響 あり	影響わずか 又は不明		
39		ケナシヒメムカシヨモギ	キク	○		○	IV			○		
40	新	コヌカグサ	イネ	○		○	I、IV			○		
41		コマツヨイグサ	アカバナ	○		○	II、IV		○			
42		コンテリクラマゴケ	イワヒバ	○		○	IV			○		
43		シチヘンゲ(ランタナ)	クマツヅラ	○		○	IV、V		○			道路縁に繁殖
44		シナダレスズメガヤ	イネ	○		○	IV		○			
45		シマスズメノヒエ	イネ	○		○	IV		○			
46		シャクチリソバ	タデ	○		○	IV			○		
47		シュロガヤツリ	カヤツリグサ	○		○	II、IV			○		河川に繁殖
48	新	シンテップウユリ	ユリ	○		○	I、IV	○				道路沿いに繁殖
49		セイタカアワダチソウ	キク	○		○	II、IV	○				
50		セイバンモロコシ	イネ	○		○	IV			○		
51		セイヨウカラシナ	アブラナ	○		○	IV			○		
52		タチアワユキセンダングサ	キク	○		○	IV	○				南部では生育地が拡大
53		タチスズメノヒエ	イネ	○		○	IV		○			
54	新	チクゴスズメノヒエ	イネ	○		○	IV、V			○		
55		ツルドクダミ	タデ	○		○	II、IV			○		
56		ツルニチニチソウ	キョウチクトウ	○		○	IV			○		
57		トウネズミモチ	モクセイ	○		○	II、IV	○				照葉樹林内に侵入
58		ドクムギ類	イネ	○		○	IV			○		
59	新	ナガエツルノゲイトウ	ヒユ	○	○	○	IV、V		○			水田や低湿地に繁殖
60		ナガバギシギシ	タデ	○		○	I			○		
61		ナギナタガヤ	イネ	○		○	IV			○		
62		ナルトサワギク	キク	○	○	○	IV、V	○				造成地に大繁殖
63		ナンキンハゼ	トウダイグサ	○		○	IV			○		
64		ノハカタカラクサ	ツククサ	○		○	IV		○			
65	新	バクヤギク	ハマミズナ	○		○	II、IV	○				
66	新	ハナシュクシャ	ショウガ	○		○	II、IV			○		
67		ハナニラ	ユリ	○		○	IV			○		
68		ハリエンジュ(ニセアカシア)	マメ	○		○	II、IV			○		
69		ハルガヤ	イネ	○		○	IV			○		
70	新	ヒメイワダレソウ	クマツヅラ	○		○	I、II、IV			○		
71		ヒメジョオン	キク	○		○	II、IV			○		
72		ヒメスイバ	タデ	○		○	IV、V			○		
73	新	ヒメツルソバ	タデ	○		○	IV		○			
74		ヒメヒオオギズイセン	アヤメ	○		○	IV		○			
75	新	ピラカンサ類	バラ	○		○	IV			○		
76	新	ビワ	バラ	○		○	IV			○		
77		フヨウ	アオイ	○		○	I			○		
78	新	フランスギク	キク	○		○	II、IV			○		
79		ペラペラヨメナ	キク	○		○	II、IV			○		
80		ホシアサガオ	ヒルガオ	○		○	II、IV		○			
81		ホテイアオイ	ミズアオイ	○		○	II、IV	○				池に大繁殖
82	新	マンテマ	ナデシコ	○		○	IV			○		
83		ムシトリナデシコ	ナデシコ	○		○	IV			○		
84		メリケンカルカヤ	イネ	○		○	IV		○			
85		メリケンガヤツリ	カヤツリグサ	○		○	IV		○			
86	新	モウソウチクなどの竹類	イネ	○		○	II、IV、V		○			照葉樹林内に拡大
87	新	モミジヒルガオ	ヒルガオ	○		○	IV			○		
88	新	ヤナギバルイラソウ	キツネノマゴ	○		○	II、IV	○				河川に多く侵入
89		ヨシススキ	イネ	○		○	II、IV			○		

# 長崎市外来種リスト(動物)

## 1. 外来種の定義

- (1)人為によって、長崎市に江戸時代以降の過去もしくは現在の自然分布域外から持ち込まれた繁殖可能な状態の種、亜種、変種、地域個体群。  
人為的に持ち込まれる際の意図的、非意図的は問わない。
- (2)動物については、国内の長崎市以外の地域から持ち込まれた種や、在来種と同種であっても遺伝的に異なるもの、屋外での繁殖が確認されていない未定種は含めている。
- (3)人為とされる「地球温暖化」に伴い、長崎市外の本来の生息地から種自らの飛来等で定着したもの、屋外であっても圃場・庭園・植林地等で生息生育を管理されている状態の個体・個体群は含めない。

## 2. 範囲

- (1)長崎市の陸域、淡水域および港湾などごく沿岸部の海域(概ね海岸線より沖合100m以内)。
- (2)長崎市自然環境調査委員が把握可能な分類群。  
主な分類群として、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、十脚甲殻類、貝類及びその他(それ以外のもので人への危険性や不快感を及ぼすもの)。

## 3. 選定理由

- I 生態系被害が大きいもの。
- II 生物多様性の保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高いもの。
- III 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
- IV 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

## 4. 市内未定着(定着予防)

- ①市内で見られる。県内他市町定着
- ②市内で見られる。県内他市町未定着
- ③市内で見られない。県内他市町定着
- ④市内で見られない。県内他市町未定着

No.	掲載	和名(別名、流通名)	由来		特定外来	生態系外来	長崎市リスト				備考	
			国外	国内			選定理由	影響大きい	定着影響あり	影響わずか又は不明		未定着定着予防
<b>哺乳類</b>												
1		アライグマ	○		○	○	III		○			長崎市でも確認されてきた。今後、個体数の増加とともに被害が懸念される
2		シベリアイタチ(チョウセンイタチ)	○			○	IV			○		最近シベリアイタチという名前を使うことが多い。在来のイタチとの関係が不明である
<b>鳥類</b>												
1	新	外国産メジロ	○			○	IV				①	2016年10月にチョウセンメジロ1羽が確認されたが自然飛来か籠脱けかは不明
2		カササギ	○				IV				①	
3	新	ガビチョウ	○		○	○	IV				①	
4		カワラバト(ドバト)	○				III		○			有害駆除対象
5	新	コウライキジ	○			○	IV				④	近隣県にて定着している個体群が侵入してきていると考えられる。近隣の大村市、諫早市では一部定着
6		コジュケイ	○				IV			○		狩猟鳥として各地で放鳥
7		コブハクチョウ	○			○	IV			○		西彼半島の河口域にて繁殖確認。生態系への悪影響は確認されていない
8	新	シロガシラ	○			○	IV				①	
9	新	ソウシチョウ	○		○	○	IV				①	毎年春の渡り期には市内にて移動個体が確認される。近隣の諫早市、大村市(多良山系)、雲仙市(雲仙山系)では定着している
<b>爬虫類</b>												
1	新	カミツキガメ	○		○	○	III				④	
2		クサガメ	○				IV			○		近年外来種であることが報告された
3		ミシシippアカミミガメ	○		※	○	I、II		○			都市部の河川や池で分布拡大
4	新	ワニガメ	○			○	III				②	
<b>両生類</b>												
1		ウシガエル	○		○	○	I、II		○			陸上水域の生態系に大きな被害
<b>魚類</b>												
1		オイカワ		○			I			○		浦上川、日見川、八郎川、宮崎川、中島川、多以良川
2		オオクチバス	○		○	○	I、II	○				神浦ダム、大首ダム、中尾ダム、鹿尾ダム、黒浜ダム、式見ダム、川原大池、宮崎ダム、中島川ほか
3		カダヤシ	○		○	○	I	○				出津川、宿町、宮崎町
4		カムルチー					I				③	市内情報不足、諫早市、佐世保市ほか
5		ゲンゴロウブナ(ハラブナ)		○			II			○		川原大池
6		コイ	○				I、II	○				市内各所。ゲンジボタルの幼虫など小型水生生物への捕食圧が懸念される
7		タモロコ		○			IV				③	相浦川(佐世保)、鰯川(五島)
8		ナイルティラピア	○			○	I				③	諫早市
9		フナ属		○			I、II			○		市内各所
10		ブルーギル	○		○	○	I、II	○				川原大池、鹿尾ダム、神浦ダム、多以良川、中尾ダム、式見ダム、浦上川、中島川ほか
11		メダカ属		○			I		○			ヒメダカ等品種改良も含む、市内各所
12		モツゴ		○			I			○		八郎川、川原大池、千々川上流
<b>昆虫類</b>												
1		アオマツムシ	○				IV			○		明治(1989年前後)に中国より東京に侵入
2		アメリカシロヒトリ	○				IV			○		1945年東京 軍事物資に混入して侵入 侵略的外来種ワースト100

※2022年(令和4年)現在、放流・販売の法的規制が検討されている。

No.	掲載	和名(別名、流通名)	由来		特定 外来	生態系 外来	長崎市リスト				備考	
			国外	国内			選定 理由	定着				未定着 定着 予防
								影響 大きい	影響 あり	影響 わずか 又は不明		
3		アメリカミズアブ	○				IV			○	1950年東京 日本の外来昆虫相(農業環境技術研究所報告)	
4		アルファルファタコソウムシ	○				IV			○	1982年福岡 輸入貨物に紛れて侵入 侵略的外来種ワースト100	
5		アワダチソウグンバイ	○				IV			○	2000年兵庫 港湾地域で発見	
6		イネミズソウムシ	○				III			○	1976年愛知 アメリカ乾燥干し草に混入して侵入	
7		オオミノガヤドリバエ	○				I			○	中国大陸より1995年福岡に侵入 日本の外来種リスト(2002)	
8	新	外国産クワガタムシ	○			○	IV				② 柿泊2017年、生物学会誌78号	
9		キマダラカメムシ	○				IV			○	記載は1783年で、採集は1770年代 江戸末期長崎に侵入	
10		クリタマバチ	○				IV			○	中国からクリの苗木に紛れて1941年岡山県に侵入	
11	新	国産クワガタムシ (オオクワガタ)		○			IV				② あぐりの丘、2020年、こがねむし86号	
12		サツマゴキブリ		○			IV			○	国立環境研究所侵入生物DB 国内外来種	
13		セイヨウミツバチ	○				IV			○	明治時代(1876年)に導入された 移入種(外来種)リスト(環境省)	
14		タイワンクツワムシ	○				IV			①	1950年に愛知 国立環境研究所侵入生物DB	
15		チャバネゴキブリ	○				III			○	アフリカ 江戸末期に侵入 侵略的外来種ワースト100	
16		チュウゴクオナゴバチ	○				IV			○	クリタマバチを駆除するため天敵として1982年茨城県に初めて導入された	
17	新	ツマアカスズメバチ	○		○	○	III				③ 朝鮮半島より2013年対馬に侵入	
18	新	トガリアメンボ	○				IV			○	2001年淡路島 東南アジアからの水生植物に混入	
19	新	トゲムネミヤマカミキリ	○				III				③ 大陸・台湾 1961年長崎(島原)で発見	
20		ハラアココバカミキリ		○			IV			○	1951年ころ大陸から対馬に侵入 2010年には長崎市で発見 日本の外来昆虫相(農業環境技術研究所報告)	
21		ヒロヘリアオイラガ	○				IV			○	1920年頃 樹木に混入して侵入 侵略的外来種ワースト100	
22	新	ヘクソカズラグンバイ	○				IV			○	1996年大阪 航空貨物に紛れて侵入	
23		ミナミキイロアザミウマ	○				IV			○	東南アジアより1979年に侵入 侵略的外来種ワースト100	
24		モンキタマムシ	○				III			○	中国原産 江戸末期に樹木とともに長崎に侵入	
25		ヤサイソウムシ	○				IV			○	ブラジル原産 単為生殖をする 1942年頃国内に侵入	
26		ヤシオオオサソウムシ	○				III				② カナリーヤシ(フェニックス)を食害 台湾から1975年沖縄に、長崎では宮崎のヤシを移植した際に侵入	
27		ヤノネカイガラムシ	○				III			○	中国より1920年頃侵入 侵略的外来種ワースト100	
28		ヨコズナサシガメ	○				IV			○	九州では1930年代に侵入が記録されている	
29		ヨツモンカメノコハムシ	○				IV			○	1999年長崎 国立環境研究所侵入生物DB	
30		ラミーカミキリ	○				IV			○	江戸末期 ラミーに混入して侵入	
<b>十脚甲殻類</b>												
1		アメリカザリガニ	○		※	○	I、II、III	○			永田川、八郎川	
2		カワリヌマエビ属		○			I、II		○		市内各所の河川、ダム等、国外の種が混在している可能性あり(情報不足)	
3		スジエビ		○			I、II		○		川原大池、浦上川、中島川、国外の種が混在している可能性あり(情報不足)	
<b>貝類</b>												
1	新	ウスカワマイマイ		○			I、II、III			○	市内各所	
2		コウロエンカワヒバリガイ	○			○	I、III			○	長崎港(下の川河口)	
3		サカマキガイ	○				I、II		○		各所、複数種の可能性あり	
4		シマメノウフネガイ	○			○	IV			○	市内海岸各所(打上)	
5		スクミンゴガイ	○			○	I、II、III	○			川原大池、三重川、八郎川など。橋湾の海岸各所に打上げられた貝殻が確認されている	
6	新	タイワンシジミ種群	○			○	I				③ 情報不足	
7	新	ツシマケマイマイ		○			IV			○	市内各所	
8	新	トライミスゴマツボ	○				IV				③ 諫早湾	
9		ハブタエモノアラガイ	○			○	I、II			○	戸根川、八郎川、中島川、大浦川、相川川、樺島、永田町、川原大池、出津川	
10		ヒメタニシ		○			IV			○	中島川	
11		ミドリイガイ	○			○	I、III			○	長崎港、伊王島	
12		ムラサキイガイ	○			○	I、III			○	池島、長浦、浦上、三重、小江、飯香浦、戸根原、手崎、戸石、蚊焼、川原、黒崎、干々	
13	新	メリケンゴザラ	○				IV				③ 定着している可能性あり(過去のカワゴザラの記録要検討)	
<b>その他</b>												
1	新	アメリカナミウズムシ	○				IV			○	1990年代浦上川記録。近縁在来種との競合が懸念され、今後の知見の集積が必要	
2		アメリカフジツボ	○			○	IV			○	1960年代長崎港。在来フジツボ類との付着基質の競合や漁具・船底への汚損被害。市内の生息状況の情報集積が必要	
3	新	オオマリコケムシ	○				IV			○	侵入している可能性あり。諫早市記録。水源に多数発生した場合、浄水場の濾過障害などが懸念され、今後の知見の集積が必要	
4	新	オカダンゴムシ	○				I、II			○	市内各所。市内でも在来種との生息場所等の競合が懸念される	
5	新	カサネカンザシ	○			○	III			○	1950年代長崎港。市内でも漁具や船底への汚損被害が懸念される	
6	新	セアカゴケグモ	○		○	○	III				② 大村、長崎	
7		タテジマフジツボ	○			○	I、III			○	1950年代長崎港。在来フジツボ類との付着基質の競合や漁具・船底への汚損被害	
8	新	ハイイロゴケグモ	○		○	○	III				④ 大村	
9	新	フロリダマミズヨコエビ	○			○	IV			○	2018年浦上川。近縁在来種との競合が懸念される。今後の知見の集積が必要	
10	新	ヤンバルトサカヤステ	○			○	IV				① 2021年高浜町	
11		ヨーロッパフジツボ	○			○	IV			○	1960年代長崎港。在来フジツボ類との付着基質の競合や漁具・船底への汚損被害。市内の生息状況の情報集積が必要	

※2022年(令和4年)現在、放流・販売の法的規制が検討されている。

## 【参考資料】 各分類群の主要な種の解説・写真

### 1 「植物」

(リストNo.植物 2)

#### アツバキミガヨラン

*Yucca gloriosa* L. (ユリ科)

長崎市カテゴリー；影響あり

分布；脇岬町、野母町、高浜町、その他の海浜

観賞用に導入されたもので、捨てられたものが野生化している。繁殖は旺盛ではないが、乾燥に強く、一度野生化すると枯れることはなく、切ってもすぐに再生する。葉は硬く、先端はトゲ状となるために処分に困る。海岸植物の生育する立地を奪ってしまう。



(リストNo.植物 17)

#### オオオナモミ

*Xanthium orientale* L. (キク科)

長崎市カテゴリー；影響わずか又は不明

分布；市内全域

空き地や郊外の路傍、溜池の周囲などに生育する。茎は丈夫で、果実にトゲがあるために、大きくなると駆除に困る。発芽率がよく、種子で容易に繁殖するために、池やダム湖の周囲には一面に広がっているところがある。



(リストNo.植物 18)

#### オオカナダモ

*Egeria densa* Planch. (トチカガミ科)

長崎市カテゴリー；影響大きい

分布；川原大池、その他の池や川

富栄養から貧栄養の水中まで生育でき繁殖力が強い。水中に一面に広がり、在来水草を駆逐してしまう。水草として導入されたものが捨てられて野生化したものと考えられ、ビオトープの中にも多く見られる。駆除することは大変難しい。



(リストNo.植物 21)  
オオキンケイギク

*Coreopsis lanceolata* L. (キク科)

長崎市カテゴリー；影響わずか又は不明【特定外来種】

分布；市内全域の道路沿いや公園など

北アメリカ原産の多年草で、道路法面の緑化や観賞用に導入されたが、道端や人家付近に野生化している。花期は、5～7月頃で黄色の舌状花の先は4-5裂する。特定外来生物に指定されており、栽培が禁止されているが、美しい花が咲くことから、現在でも各地で栽培されている。



(リストNo.植物 24)  
オオブタクサ (クワモドキ)

*Ambrosia trifida* L. (キク科)

長崎市カテゴリー；影響あり

分布；市内全域

河床や道端などに生育する大型の一年草で、大きなものは2mを越える。島原半島に多く、長崎市内でも最近になってよく見かけるようになった。大型の草本であり、在来の植物を駆逐する恐れがある。



(リストNo.植物 57)  
トウネズミモチ

*Ligustrum lucidum* Aiton (モクセイ科)

長崎市カテゴリー；影響大きい

分布；琴海村松町、その他

公園木や庭木として導入されたものであるが、果実は鳥によって散布されるために、居住地周辺の山林に定着している。ネズミモチよりも種子生産量が多く、自然林にも生育できるため、本来の自然生育するネズミモチと区別できなくなる恐れがある。



(リストNo.植物 62)  
ナルトサワギク

*Senecio madagascariensis* Poir. (キク科)

長崎市カテゴリー；影響大きい【特定外来種】

分布；市内全域の道端、造成地など

最近になって急に多くなった外来植物で、特に造成地にいち早く侵入し、黄色の花を咲かせる。ほぼ一年中花を咲かせ、冠毛をもつ種子を生産するので広がりやすい。海岸にも侵入している所がある。



(リストNo.植物 81)  
ホテイアオイ

*Eichhornia crassipes* (Mart.) Solms (ミズアオイ科)

長崎市カテゴリー；影響大きい

分布；市内全域の溜池

観賞用に導入された水草であるが、各地の溜池や水路などに繁殖し、水面を覆いつくすため、在来の水草を駆逐する恐れがある。冬期には枯れるが、大繁殖した後に枯れることによって、腐敗し水が汚染されるのも問題である。



## 2 「哺乳類」

(リストNo.哺乳類 1)

### アライグマ

*Procyon lotor* (Linnaeus, 1758) (アライグマ科)

長崎市カテゴリー；影響あり【特定外来種】

分布；市内北部

北米原産でタヌキとよく似た形態であり、動物園では人気者の動物である。ペットとして飼育されていた個体が野外に放逐され、県内では増加の一途をたどっている。県北を中心に農業の被害が増加しているが、生態系への影響も懸念されている。長崎県では1998年から県北を中心として捕獲されており、その捕獲個体数は年々増加している。



(リストNo.哺乳類 2)

### シベリアイタチ (チョウセンイタチ)

*Mustela sibirica* (Pallas, 1773) (イタチ科)

長崎市カテゴリー；影響わずか又は不明

分布；市内全域

最近ではシベリアイタチという名前を使うことが多い。全身焦げ茶色から明るい茶色で陸上の小動物や水中の魚などを捕食し、残飯等を集まる。対馬だけが自然分布となっているが、現地では減少傾向にある。長崎県内各地に分布を広げ、在来種であるイタチを駆逐している。なお、長崎県内における両者の分布状況は不明であるとともに識別も難しく、一見しただけでは分かりにくい。



### 3 「鳥類」

(リストNo.鳥類 2)

#### カササギ

*Pica pica sericea* Gould, 1845 (カラス科)

長崎市カテゴリー； 定着予防

(①市内で見られる。県内他市町定着)

分布；つつじヶ丘、神浦ダム付近

この鳥は、朝鮮半島からヨーロッパ全域、さらには北アメリカ大陸西部にまで生息している。近隣県から分布を広げて来たものと思われ、佐賀平野では、黒いカラスに比べてひと回り小ぶりで、胸と腹、羽の部分が白く、「カチカチ」という鳴声から、佐賀ではカチガラスとも呼ばれ、親しまれている。長崎市内では、東長崎地区において、つがい（ペア）が稀に見られるが、その他の地域では迷行した個体が1例見られただけである。諫早干拓地でも、近年はほとんど観察されていない。



(リストNo.鳥類 4)

#### カワラバト

*Columba livia* Gmelin, 1789 (ハト科)

長崎市カテゴリー； 影響あり

分布；市内全域

本来ヨーロッパ、中央アジア、北アフリカなどの乾燥地帯に生息する鳥であったが、人に馴れやすいため家禽化され、食用や伝令用として利用されたほか、愛玩用の品種も多数作られた。日本にいつ渡来したかは定かではないが、全国的に分布しており、公園や農耕地での集団行動や糞公害など様々な問題を抱えている。



(リストNo.鳥類 5)

#### コウライキジ

*Phasianus colchicus karpowi* Buturlin, 1904 (キジ科)

長崎市カテゴリー； 定着予防

(④市内で見られない。県内他市町未定着)

分布；長崎市内では記録なし

日本鳥学会鳥類目録第7版2012によると、長崎県本土域では留鳥とされているが、県南部での記録は定かでない。対馬では普通種として記録があるが、本土域で増殖するキュウシュウキジと容易に交雑するとされ、ニホンキジの純粋種が失われる問題がある。



(リストNo.鳥類 6)

### コジュケイ

*Bambusicola thoracica thoracica* Temminck, 1815 (キジ科)

長崎市カテゴリー；影響わずか又は不明

分布；神浦ダム、西彼林道、川原大池公園、

黒崎永田湿地自然公園、宮崎町、矢上普賢岳

長崎市内では、市街地に隣接する農地、公園、湿地、山林で広く分布しているが、近年では、極めて確認する機会が少なくなっている。狩猟圧や、繁殖生態が地上で行われるため野猫などの外敵によって繁殖が出来なくなっていると考えられる。

同様な環境で繁殖するキュウシュウキジと比較して見ると2005年から2012年までの8年間の記録では、キジの平均年間観察記録が36日に対してコジュケイは8日弱であり年々減少傾向にある。



(リストNo.鳥類 7)

### コブハクチョウ

*Cygnus olor* (Gmelin 1789) (カモ科)

長崎市カテゴリー；影響わずか又は不明

分布；長崎市神浦漁港、西海市雪浦河口

原産地はヨーロッパで、日本には飼い鳥として、ヨーロッパから移入したものが公園や動物園などで飼育された。しかし、飼育個体の一部が野生化し、各地に定着している。長崎市に隣接する西海市雪浦では、毎年ペアで繁殖が確認されている。



## 4 「爬虫類」

(リストNo.爬虫類 3)

### ミシシippアカミミガメ

*Trachemys scripta elegans* (Wied, 1839) (ヌマガメ科)

長崎市カテゴリー；影響あり

分布；中島川、浦上川、川原大池などの各河川、ダム湖・池など  
北米原産で大量に輸入されてきた。幼体は「ミドリガメ」の商品名で販売され、1970年代ごろから日本全域で目立ち始めた。野外個体はペットとして飼育していた個体の放流や逃亡が中心である。寿命が40年程度と長いので飼育をあきらめる人も多く、長崎市市内にも多数生息し、一部では自然繁殖している。

2022年（令和4年）現在、放流・販売の法的規制が検討されている。



## 5 「両生類」

(リストNo.両生類 1)

### ウシガエル

*Rana catesbeiana* Shaw, 1802 (アカガエル科)

長崎市カテゴリー；影響あり **【特定外来種】**

分布；市内全域のダム湖、池、河川など

北米から食用として人為的に持ち込まれた。戦後しばらくはアメリカ等に輸出されていたが、残留農薬の関係で輸出は中止され、野外に放逐された個体が全国的に広がった。大きな鳴き声が騒音公害を起こすほか、手当たり次第に何でも捕食するため生態系に及ぼす被害が大きい。



## 6 「魚 類」

(リストNo.魚類 2)

### オオクチバス

*Micropterus salmoides* Lacépède, 1802 (サンフィッシュ科)

長崎市カテゴリー； 影響大きい【特定外来種】

分布； 鹿尾ダム、神浦ダム、宮崎ダム、川原大池など

北アメリカ原産で国内には1925年に持ち込まれ、長崎県内には2年後の1927年に島原半島に持ち込まれた。その後、長崎市内の川原大池などに放され、現在では市内各所のダム等に生息している。魚類や甲殻類を主に捕食する大食漢で、在来の魚類やエビ・カニ類に対して影響が大きい。特定外来生物に指定されており、法律により移動、飼育等が禁止されている。



出典：環境省ホームページ

(<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>)

(リストNo.魚類 3)

### カダヤシ

*Gambusia affinis* (Baird and Girard, 1853) (カダヤシ科)

長崎市カテゴリー； 影響大きい【特定外来種】

分布； 新牧野町、宿町、宮崎町、時津川下流(上流部の長崎市側では見つかっていない)

北アメリカ原産の種で国内には1916年に、和名が示すように蚊の幼虫・さなぎの駆除の目的で持ち込まれている。一見するとメダカに似ていることから、メダカと勘違いして捕獲・飼育・放流等が行われている事が多い。長崎市内では、まだあまり広がっていないが、隣の諫早市や時津町では平野部各所で見つかっている。長崎市内の出津川では、上流部にあるダムで見つかっており、今後、下流域に広がる可能性がある。また、生息環境が似ているミナミメダカへの影響が懸念されている。特定外来生物に指定されており、法律により移動、飼育等が禁止されている。



(リストNo.魚類 6)

## コイ

*Cyprinus carpio* (Linnaeus, 1758) (コイ科)

長崎市カテゴリー； 影響大きい

分布；市内の各河川

年代は不明だが、国内ではコイの放流が各地で行われ、明治以降になるとユーラシア大陸などからのコイも各地に放流されている。長崎市内でも各地の河川に放流されているが、造成されたダムや溜池以外の河川などでは、勾配が大きいなど本種の生息に適した環境が少ないため、本種の稚魚はほとんど確認されていない。また、長崎市に限ると自然分布も疑わしく、長期間にわたる、摂食により河川内に生息する小型の水生動物への影響、河床堆積物の攪拌による改変や水質への影響、他の在来魚類との競合などその影響は大きいと考えられる。

参考文献等：国立環境研究所

HP<<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>>



(リストNo.魚類 10)

## ブルーギル

*Lepomis macrochirus* Rafinesque, 1819 (サンフィッシュ科)

長崎市カテゴリー； 影響大きい【特定外来種】

分布；鹿尾ダム、神浦ダム、川原大池、中島川など

1960年にアメリカから持ち込まれ、各地へ放流された。長崎県内では、県本土や壱岐各所に広がっており、長崎市内においてもダム・溜池やその下流側の河川などに生息している。主に小動物を捕食するが、個体によっては水草などを食べるものもいる。特定外来生物に指定されており、法律により移動、飼育等が禁止されている。



## 7 「昆虫類」

(リストNo.昆虫類 1)

### アオマツムシ

*Trujalia hibinonis* (Matsumura, 1928) (マツムシ科)

長崎市カテゴリー； 影響わずか又は不明

分布； 市内全域

東南アジアや中国に分布し、明治時代樹木の苗に紛れて国内に侵入したと考えられている。街路樹や庭の植え込み、果樹園、丘陵地と広範囲に見られる。夜行性で樹上生活をしており、植物の葉や果実のほか昆虫も食べる。



幼虫



成虫

(リストNo.昆虫類 9)

### キマダラカメムシ

*Erthesina fullo* (Thunberg, 1783) (カメムシ科)

長崎市カテゴリー； 影響わずか又は不明

分布； 市内全域

東南アジア原産の大型のカメムシ(体長20mm程度)の一種である。江戸時代に出島に侵入して国内に分布を拡大していったとされている。ソメイヨシノなどのサクラをはじめ、ウメやモモなどのバラ科の樹木でよく見られる。



(リストNo.昆虫類 13)

### セイヨウミツバチ

*Apis mellifera* Linnaeus, 1758 (ミツバチ科)

長崎市カテゴリー； 影響わずか又は不明

分布； 市内全域

ヨーロッパ、中近東、アフリカに分布し、国内には明治初期に移入された。現在では全国に分布し、養蜂用に飼育されている。働き蜂は体長13mm程度で、体は茶褐色で腹部に縞模様がある。



(リストNo.昆虫類 17)  
ツマアカスズメバチ

*Vespa velutina* Lepeletier, 1836 (スズメバチ科)

長崎市カテゴリー； 定着予防【特定外来種】

(③市内で見られない。県内他市町定着)

分布；長崎県対馬市

インド・東南アジア・中国から韓国にかけて分布している。国内では、2013年に初めて長崎県対馬市で確認されたが、侵入経路は不明である。成虫の体長は、女王バチが約30mm、働きバチが約20mm程度である。体色は全体に黒色であるが腹部の先端は赤褐色である。主に田園地域に生息し、最初は茂みや低木の中や地中に営巣するが、コロニーが大きくなると、他のスズメバチ類と異なり、樹上の比較的高い場所に巣を移すのが特徴である。主にミツバチなどの昆虫を捕食する。攻撃性も強いので巣に近づくと危険である。



出典：環境省ホームページ

(<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>)

(リストNo.昆虫類 18)  
トガリアメンボ

*Rhagadotarsus kraepelini* Breddin, 1905 (アメンボ科)

長崎市カテゴリー； 影響わずか又は不明

分布；市内北部

東南アジアに分布する小型のアメンボで、<sup>むしがた</sup>無翅型と<sup>ゆうしがた</sup>有翅型の翅二型が存在する。2012年に兵庫県で発見されて以来、国内で分布を拡大している。長崎県内では2013年に確認され、現在では市内で発生している。水草などとともに侵入したとされているが、侵入経路も含めて不明である。



写真提供：安永 智秀 博士

(リストNo.昆虫類 28)  
ヨコズナサシガメ

*Agriosphodrus dohrni* (Signoret, 1862) (カメムシ科)

長崎市カテゴリー； 影響わずか又は不明

分布；市内全域

ニレ科やバラ科の樹木に見られる大型のサシガメの一種で、腹部は白地に黒斑のある結合版が外側に張り出している。体長は16~24mmで昆虫を刺して体液を吸収する。インドシナ半島、インド、中国に分布するが、1930年代に貨物に紛れて九州に侵入した。現在は、四国、本州（関東）まで分布域を広げている。



(リストNo.昆虫類 29)

### ヨツモンカメノコハムシ

*Lacoptera (Lacopteroidea) nepalensis* Boheman, 1855  
(ハムシ科)

長崎市カテゴリー；影響わずか又は不明

分布；市内全域

成虫は8mm前後で楕円形をしており、幼虫はサツマイモ、ノアサガオ、ヒルガオなどを食害する。東南アジアから南アジアに分布し、国内では南西諸島で発生していたが、長崎県内では1999年に確認され、毎年発生している。近年、九州各地でも発見されている。



## 8 「十脚甲殻類」

(リストNo.十脚甲殻類 1)

### アメリカザリガニ

*Procambarus clarkii* (Girard, 1852) (アメリカザリガニ科)

長崎市カテゴリー；影響大きい

分布；永田町、八郎川水系

北アメリカ原産で国内には、1927年にウシガエルの餌として持ち込まれた。長崎県では、県本土をはじめ五島市や対馬市でも見つかっている。長崎市内では全域に広がっていないものの、一部の地域では大量に生息している。トンボ類などの水生昆虫類を捕食したり、水草を傷めるなど生態系への影響が問題となっている。2022年（令和4年）現在、放流・販売の法的規制が検討されている。



## 9 「貝類」

(リストNo.貝類 5)

### スクミリンゴガイ

*Pomacea canaliculata* Lamarck, 1819 (リンゴガイ科)

長崎市カテゴリー； 影響大きい

分布； 八郎川水系、三重地区、川原大池など

南アメリカ原産で1981年に国内及び長崎県内に持ち込まれ、一般的に「ジャンボタニシ」と呼ばれる巻貝である。外見では、区別が困難なラプラタリンゴガイも国内に持ち込まれており、市内で確認されている種がどちらであるかよく分かっていない。市内では、まだ局所的であるが、今後、水田地帯を中心に広がる可能性がある。田植え間もないイネを食害することがある反面、除草手段として利用することもある。



(リストNo.貝類 11)

### ミドリイガイ

*Perna viridis* (Linnaeus, 1758) (イガイ科)

長崎市カテゴリー； 影響あり

分布； 長崎湾、伊王島

二枚貝の一種で、いわゆるムール貝の仲間である。イガイの仲間は通常黒っぽいのが、本種は緑色を呈することが特徴である。国内では1960年代に持ち込まれ、長崎県内では手持ちの海岸打上標本から、1997年に諫早湾、2008年に長崎港(生貝)、2018年に対馬で見つかっている。長崎湾では、防波堤護岸の側面や浮き桟橋の壁面などによく付着しており、沿岸の生物にとって生息場所の競合など生態系に影響を及ぼしているものと思われる。



## 10 「その他」

(リストNo.その他 6)  
セアカゴケグモ

*Latrodectus hasseltii* Thorell, 1870 (ヒメグモ科)

長崎市カテゴリー； 定着予防【特定外来種】

(②市内で見られる。県内他市町未定着)

分布； 日本では大阪府、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、福岡県など

オーストラリア原産で日本では1995年に大阪府で初めて発見された。体長は、雄が約3mm、雌が7～10mmで体は暗褐色または黒色で雌の腹部背面に目立った赤色の縦条、腹部の腹面中央にはゴケグモ特有の砂時計型の赤色または橙色の縦斑紋がある。

(雄には、赤い斑紋はなく、毒を持つのは雌のみ。)

生息場所としては、排水溝の側面やふたの裏、花壇のまわりのブロックのくぼみや穴、プランターと壁のすき間、墓石の花立てと線香立ての間、クーラー室外機の裏など日当たりが良く、暖かい場所を好む。

強い毒を持っているが、攻撃性のないおとなしいクモでクモの巣があれば棒切れなどで払って、素手で捕まえたり、さわったりしないようにする。



(リストNo.その他 8)  
ハイイロゴケグモ

*Latrodectus geometricus* Koch, 1841 (ヒメグモ科)

長崎市カテゴリー； 定着予防【特定外来種】

(④市内で見られない。県内他市町未定着)

分布； 日本では東京都、愛知県、神奈川県、大阪府、山口県、福岡県、鹿児島県、沖縄県など

亜熱帯地方原産で日本では1995年に神奈川県横浜市で初めて発見された。体長は、雄が4～5mm、雌が7～10mmで体は暗褐色または黒色で雌の腹部背面に目立った赤色の縦条、腹部の腹面中央にはゴケグモ特有の砂時計型の赤色または橙色の縦斑紋がある。(雄には、赤い斑紋はなく、毒を持つのは雌のみ。)

生息場所としては、排水溝の側面やふたの裏、花壇のまわりのブロックのくぼみや穴、プランターと壁のすき間、墓石の花立てと線香立ての間、クーラー室外機の裏など日当たりが良く、暖かい場所を好む。

強い毒を持っているが、攻撃性のないおとなしいクモでクモの巣があれば棒切れなどで払って、素手で捕まえたり、さわったりしないようにする。なお、平成26年8月に大村市において、本種の雌が確認された。



出典：環境省ホームページ

(<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>)

## 外来種被害予防三原則

入れない:悪影響を及ぼすおそれのある外来種を

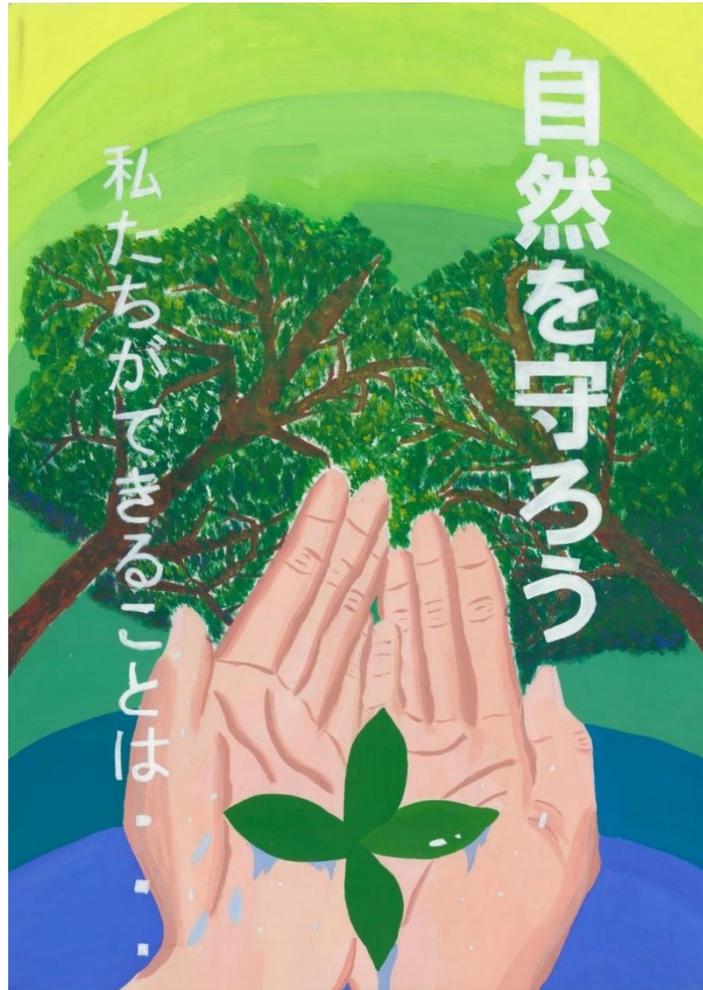
自然分布域から非分布域へ「入れない」。

捨てない:飼養・栽培している外来種を適切に管理し、「捨てない」

(逃がさない・放さない・逸出させないことを含む)。

拡げない:既に野外にいる外来種を他地域に「拡げない」

(増やさないことを含む)。



## 令和4年度長崎市環境ポスター展優秀賞受賞作品

■協力 (調査協力、写真提供)

【長崎市自然環境調査委員】

中西弘樹 (植物)、松尾公則 (哺乳類・爬虫類・両生類)、吉谷将史 (鳥類)、  
深川元太郎 (魚類・十脚甲殻類・貝類・その他)、田中清 (昆虫類・その他)

■令和4年 (2022) 11月発行

■編集・発行 長崎市環境政策課 〒850-8685 長崎市魚の町4-1

TEL 095-829-1156 FAX 095-829-1218 メール kankyo@city.nagasaki.lg.jp